

世界遺産 下鴨神社 式年遷宮展



主 催	公益財団法人 世界遺産賀茂御祖神社境内糺の森保存会
特別協力	賀茂御祖神社(下鴨神社)
後 援	文化庁、公益財団法人 日本ユネスコ協会連盟、京都府、京都市
協 力	一般社団法人 匠文化機構
会 期	平成 27 年 9 月 29 日(火)～10 月 3 日(土)
時 間	午前 10 時～午後 8 時 ※10 月 3 日(土)は午前 10 時～午後 2 時(一部展示品は正午まで)
会 場	東京交通会館 12 階 カトリアサロン A 〒100-0006 東京都千代田区有楽町 2-10-1
入場料金	一般 500 円 (小学生以下無料)
出 陳	45 件 (別紙参照)



【展示趣旨】

第34回式年遷宮を迎えた賀茂御祖神社（下鴨神社）は、平成27年4月27日に正遷宮を迎えました。

下鴨神社の式年遷宮は、21年に1度、社殿を修復し、御装束や御神宝を新調して、御神体を新宮にお遷しする祭事です。式年遷宮のなかで最も中心とされる儀式「正遷宮」に至るまでに、平成19年から8年もの歳月をかけてその準備は進められていきます。

この度の展覧会では、式年遷宮を奉祝して、式年遷宮に関する様々な御神宝や装束などを展示致し、京都の世界遺産下鴨神社の歴史や文化をお伝えしたいと考えています。

また、下鴨神社は、日本三大祭のひとつ「葵祭（賀茂祭）」の神社としても広く知られ、葵祭の装束や江戸時代に画かれた「賀茂祭」の絵巻物も展示されます。

【特別企画】

—神社を題材にした夏目漱石・平山郁夫・井浦新の作品—

下鴨神社を愛する著名人、文豪 夏目漱石・画家 平山郁夫そして、俳優 井浦新の「下鴨神社」を題材にした各作品が特別に展示されます。

エッセイ・絵画・写真と、秀逸な作品が、一堂そろい展示されるのは、今回が本邦初の展示となります。

京都では「下鴨さん」と呼ばれ多くの人々に愛される下鴨神社の尽きせぬ、そしてあらたな魅力を感じていただけることと思います。



第 34 回下鴨神社式年遷宮について

下鴨神社では、21年に1度、式年遷宮が行われています。本来の式年遷宮は、すべての建物を新しくするための宮移しのことを指しますが、下鴨神社は社殿のほとんどが国宝や重要文化財に指定されているため、すべてを新しくすることはできません。

したがって現在は、屋根の檜皮葺(ひわだぶき)の葺き替えや建具・金具の補修、漆喰壁(しっくいかべ)の塗り替えなど、大修理を行って傷んだところを直し、装いを新たにして祭儀を執り行っています。今回の大修理は、平成19年から行われ、平成27年4月27日に、第34回となる正遷宮が斎行されました。

【展覧会の構成と見所】

I 下鴨神社式年遷宮の歴史

東京初公開となる江戸時代の御神宝・御調度の数々

II 京の雅を伝える下鴨神社の文化財

『源氏物語図屏風』、賀茂祭の絵巻など

III 文豪 夏目漱石が書いた下鴨神社

短編エッセイ『京に着ける夕』直筆原稿

明治40年3月28日から4月11日までの15日間、漱石は京都を訪れ下鴨神社にほど近い友人の狩野享吉(こうきち)宅に逗留しました。この作品は、京都駅に到着してから、狩野宅に宿泊するまでの半日間を、亡き友正岡子規との思い出を織り交ぜながら描いた短編です。狩野享吉は、下鴨神社社家町にあった旧氏人・田中家の邸宅を借りて居宅としていました。漱石は狩野宅に逗留し、京都の冬特有の底冷えする中、亡き友を偲びつつ糺の森の姿を書き留めています。

[プロフィール]

小説家、評論家、英文学者。本名、夏目金之助。森鷗外と並ぶ明治時代を代表する文豪。代表作『吾輩は猫である』『こころ』などの作品で広く知られている。江戸の牛込馬場下横町(現在の東京都新宿区喜久井町)出身。大学時代には正岡子規と出会い、俳句を学ぶ。東京帝国大学英文科卒業後、松山中学、熊本第五高等学校教師などを務めた後、イギリスへ国費留学。帰国後、東大講師等の教職に従じ、在職中に、デビュー作「吾輩は猫である」を『ホトギス』に発表。以後、「坊っちゃん」「倫敦塔」などを書く。その後に教職を辞して嘱託作家として朝日新聞社に入社し、「虞美人草」「三四郎」などの新聞小説を掲載。



IV 平山郁夫が描いた下鴨神社

『神殿爽春 下鴨神社 京都』

『橋殿・舞殿』『御手洗社』『曲橋』『楼門』

『表参道 南鳥居』『瀬見の小川』

[プロフィール]

昭和5年6月15日、広島県瀬戸田町生まれ。日本画家。昭和27年に東京美術学校(現東京藝術大学)を卒業後、前田青邨に師事し、主に院展を舞台に活動。昭和20年の夏、広島での被爆体験がきっかけとなり、「平和を祈る心」を仏教伝来の道シルクロードに重ね合わせ、昭和43年以来「シルクロードシリーズ」を描き続ける。

また、作品制作活動のほか、世界文化財赤十字構想を提唱し、人類の文化遺産としての文物保護活動への協力を事業目的の一つに挙げて活動。「敦煌研究センター」の建設などに協力、敦煌の石窟群の保護などの活動を通して10年間で計50人を中国から招き、修復技術を伝授。日本と中国の文化交流を深めるなど、国内外から高い評価を得ている。また、日本美術院理事長を務めるかわら、日本人初のユネスコ親善大使やアフガニスタンの支援活動など多方面で活躍。2009年12月2日、79歳で永眠。

VI 井浦新が撮った下鴨神社

写真展『御生 Miare』

「御生(みあれ)」をテーマに、井浦新が2年を通じて下鴨神社の自然や祭、

神事を撮影した写真展。式年遷宮を担う神社の人々をコンセプトにした写真を、

和紙に染め摺りにして「掛軸」に仕立てました。

また、下鴨神社の四季折々の自然や祭の写真を、井浦のナレーションとともに編集した

映像作品を上映いたし、下鴨神社に息づく普遍の美と心をお伝えしたいと思います。

① 染め摺りした和紙のモノクロ作品の掛軸。(別紙参照)

② 井浦新の写真とナレーションによる映像作品。(別紙参照)

[プロフィール]

1974年9月15日生まれ、東京都出身。俳優 クリエーター。1998年に是枝裕和監督の映画『ワンダフルライフ』で俳優としてのキャリアをスタート。以降、映画を中心にドラマ、ナレーション、新聞や雑誌の連載など幅広く活動。2013年からNHKEテレ「日曜美術館」の司会を務める。京都国立博物館文化大使に就任し、日本の伝統文化を広く伝えるために、一般社団法人 匠文化機構を立ち上げる。

[一般社団法人 匠文化機構について]

井浦新が代表理事を務め、日本の伝統文化や伝統工芸の技を伝承する職人のものづくりを活性化するためのサポートや、日本各地に伝承される祭りや行事のアーカイブス制作等を通じて、伝統文化の美や心を広く伝える活動をおこなう。一般社団法人 匠文化機構の活動内容は、HPをご覧ください。(http://takuminokoto.com)

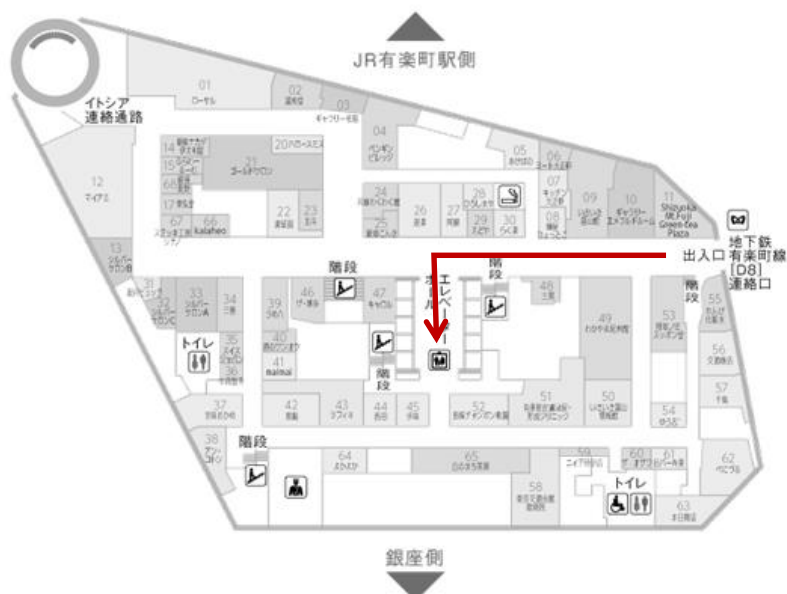


【展示会場イメージ】



【フロアマップ】

1 階



12 階



【問い合わせ】

■下鴨神社 広報 東良

〒606-0807 京都府京都市左京区下鴨泉川町 59

電話 : 075-781-0010

メール : info@shimogamo-jinja.or.jp

Web : <http://www.shimogamo-jinja.or.jp>

■(株)J-MIND 広報 鈴木・中村

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 1-7-20 DOTビル 3階

電話 : 03-5793-5436 Fax: 03-5420-3508

メール : info@j-mind.jp

